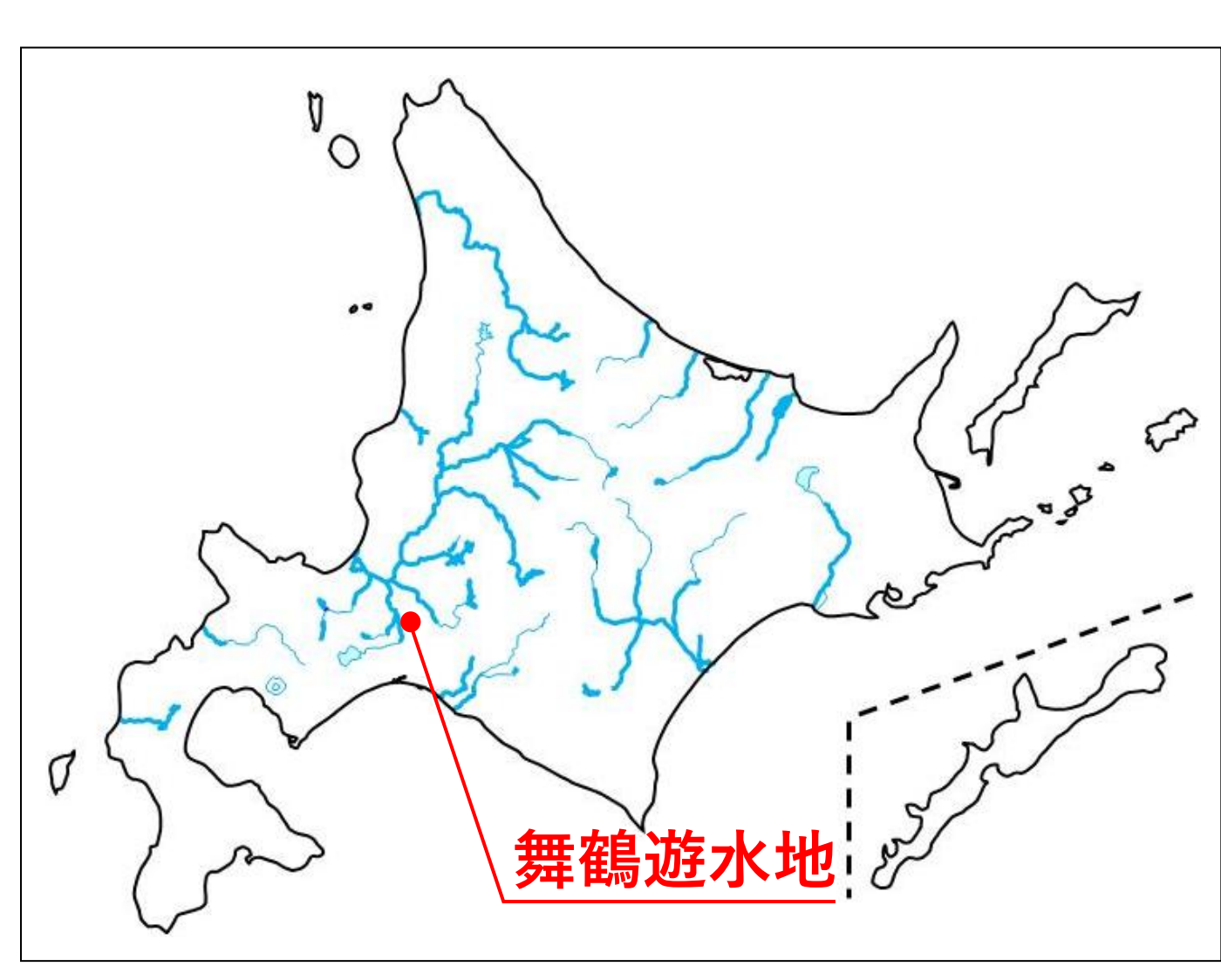


石狩川流域における生態系ネットワーク形成とタンチョウとの共存

～舞鶴遊水地におけるグリーンインフラの取組～



キーワード：グリーンインフラ, 生態系ネットワーク, タンチョウ, 遊水地, 地域振興

札幌開発建設部では長沼町と連携し、千歳川流域の新たなグリーンインフラの一つである舞鶴遊水地を軸として、地域の多様な主体が参画する「タンチョウも住めるまちづくり検討協議会」（座長：中村太士北海道大学名誉教授）を平成28年9月に設立し各種取組を推進してきた。近年、タンチョウの生息範囲拡大・飛来増加や繁殖等の背景を踏まえ、令和6年12月に「タンチョウと共存できる流域づくり協議会」として改組し、生態系ネットワークの形成やタンチョウと地域生活・産業との共存に向け令和6年2月に設立した「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」と連携・協働し、各種取組を推進している。

舞鶴遊水地におけるタンチョウとの共存

■タンチョウも住めるまちづくりの取組

舞鶴遊水地は、湛水量約820万^m、面積約200haを誇る治水施設として、平成26年度に完成、平成27年度から供用を開始した。遊水地施工中の平成24年に2羽のタンチョウが飛来したことを契機に、長沼町と札幌開発建設部が連携しタンチョウも住めるまちづくりに向けて検討協議会を設立。協議会には『生息環境専門部会』『地域づくり専門部会』を設置し、様々な取組を行っている。

■生息環境専門部会の取組

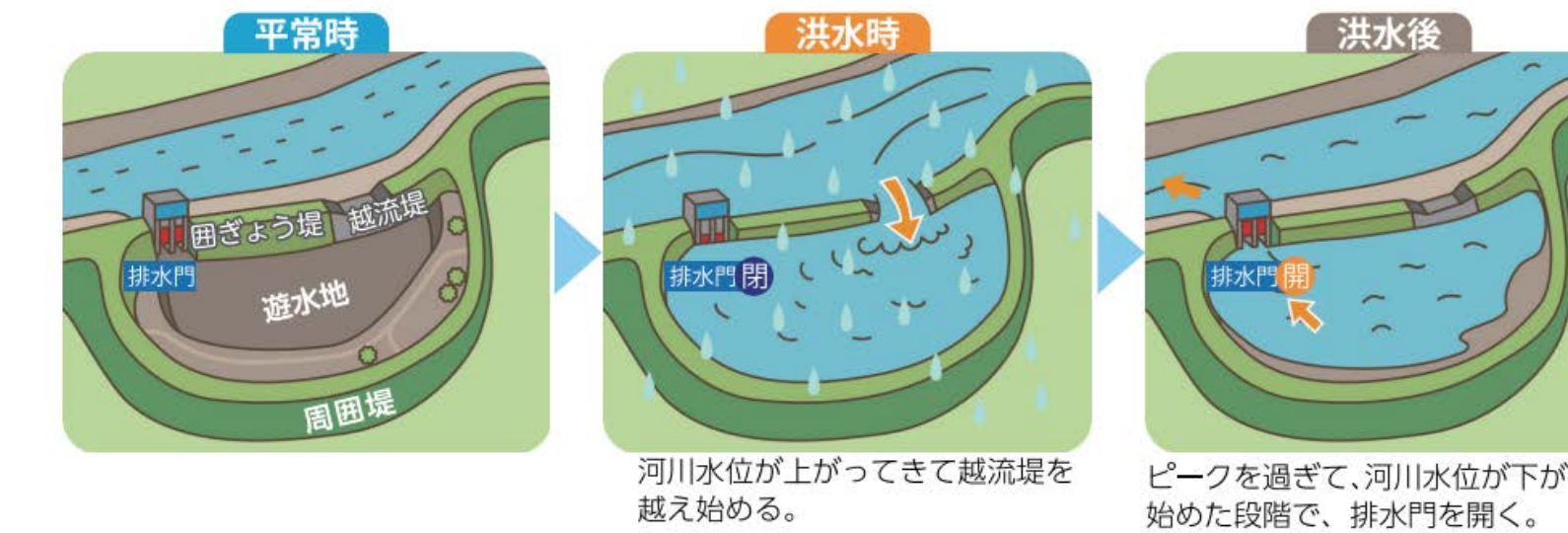
生息環境専門部会は、タンチョウの生息環境整備を目的として、営巣適地の保全・造成、電線衝突対策、特定外来生物アライグマ対策、観察マナーの普及啓発等の取組を検討・実施している。

■地域づくり専門部会の取組

地域づくり専門部会は、タンチョウをシンボルとした地域づくりを目的として、学校等への出前授業や環境学習イベント、舞鶴遊水地への利活用拠点の仮設、町内の商店・飲食店等と協力してのタンチョウをモチーフとした商品開発・販売、民間事業者と連携したツアー商品の開発等様々な取組を検討・実施している。



■遊水地の機能（洪水時の河川水位の上昇を抑制）



舞鶴遊水地はグリーンインフラとして、治水機能と生態系ネットワーク形成の両面役割を果たす。



■舞鶴遊水地で実施した環境学習イベント



■新たなグリーンインフラ・舞鶴遊水地

治水対策の一環として舞鶴遊水地が整備されたことにより、新たな人工湿地環境が出現、遊水地内の湿生植物群落や鳥類や水生生物などの住処となる豊かな自然環境を活かした環境学習や自然観察の場として活用されている。



■タンチョウを題材としたドキュメンタリー映画の公開

北海道テレビ放送株式会社により、舞鶴遊水地のタンチョウを題材としたドキュメンタリー映画が制作され、令和6年1月より北海道や東京都、愛知県、大阪府、福岡県などで劇場公開され、舞鶴遊水地における生態系ネットワーク形成の取組が広く全国に紹介された。



■5年連続で繁殖に成功

舞鶴遊水地周辺地域は、かつてタンチョウをはじめとしたツル類の繁殖地であったが、乱獲や開拓によって100年以上前に姿を消していた。平成24年に初めて2羽のタンチョウが飛来、令和2年には空知総合振興局管内では100年以上ぶりとなるタンチョウの繁殖が遊水地内で確認された。以降、令和6年まで5年連続で遊水地内での繁殖が確認されている。



石狩川流域における生態系ネットワーク形成の推進

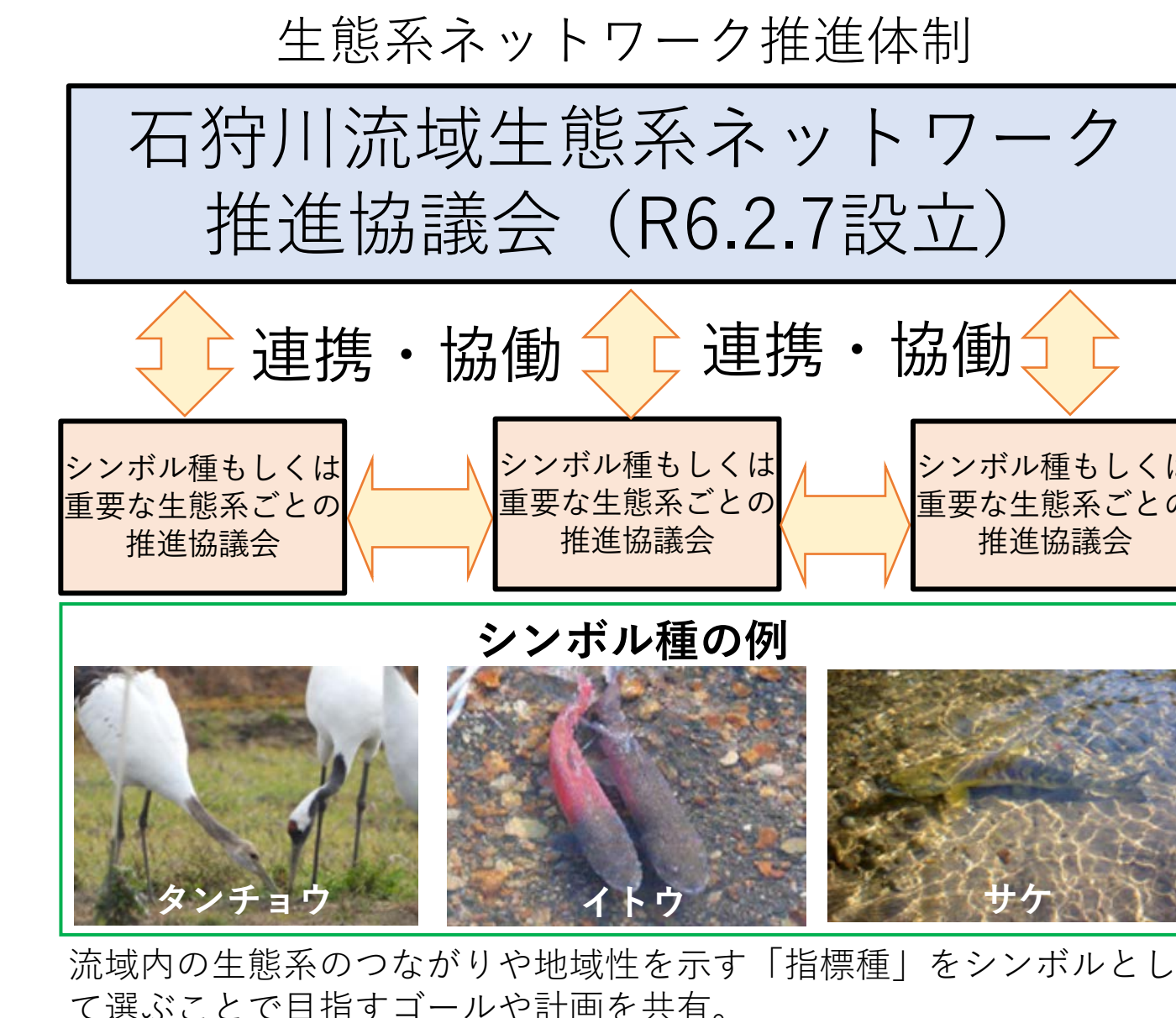
■石狩川流域における生態系ネットワーク形成の推進

- 石狩川流域の生態系ネットワーク形成を目的に、全体構想の策定、流域の取組の共有・拡大、情報発信等に関する包括的な役割を担う「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」を令和6年2月7日に設立。
- 具体的な取組については、「地域を代表するシンボル種もしくは重要な生態系ごとの推進協議会」を設立し、生物多様性の保全・再生、地域振興、グリーンインフラを活かした防災・減災の取組を推進。
- 各推進協議会が連携・協働し、流域一体として多様な生態系の構築を図る。（自然環境と社会経済の一体的な向上）

■第1回石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会

（会長：中村太士北海道大学名誉教授）
札幌開発建設部は、令和6年2月7日、学識者、石狩川流域46市町村、行政機関、関係団体等の参加のもと、「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」を設立した。

- 【取組内容】
 - ・全体構想の策定
 - ・流域の取組共有・拡大
 - ・情報発信
- 【期待される効果】
 - ・流域でのビジョンの共有
 - ・全国からの注目度の向上
 - ・流域全体での生態系ネットワーク形成の実現



石狩川流域生態系ネットワーク イメージ図

今後に向けて

■「地域を代表するシンボル種もしくは重要な生態系ごとの推進協議会」の設立
現在、「地域を代表するシンボル種もしくは重要な生態系ごとの推進協議会」としては、「タンチョウと共存できる流域づくり協議会」が設立され取組を行っている。石狩川流域には、タンチョウ以外にも特徴的な生き物や生態系が存在するため、将来的にはこれらをシンボルとした協議会の設立も検討して行きたい。

■ネイチャーポジティブの実現と持続可能な地域づくり
2030年ネイチャーポジティブ実現に向け、生物多様性に関する取組が世界的に活発化しており、石狩川流域においても生態系ネットワーク形成への期待が高まっている。今後、「石狩川流域生態系ネットワーク推進協議会」と「地域を代表するシンボル種もしくは重要な生態系ごとの推進協議会」とで連携・協働し、情報発信・普及啓発を積極的に行い、地域内外の多様な主体が参画できる仕組みづくりを行っていく。札幌開発建設部としても自治体を始め、関係行政機関、企業やNPO等様々な団体と連携し、豊かな自然資本の持続的な活用による魅力的な地域づくりを目指し取組を進めていく。